

### 1.3 土壌及び地盤の状況

#### 1) 土壌の状況

##### (1) 土壌の区分及び分布状況

調査区域における土壌の状況は、図 4-1-15 に示すとおりです。

一宮市中心部周辺等は人工改変地となっており、その他は主に褐色低地土壌や黄色土壌、灰色低地土壌が分布しています。

##### (2) 土壌汚染の状況

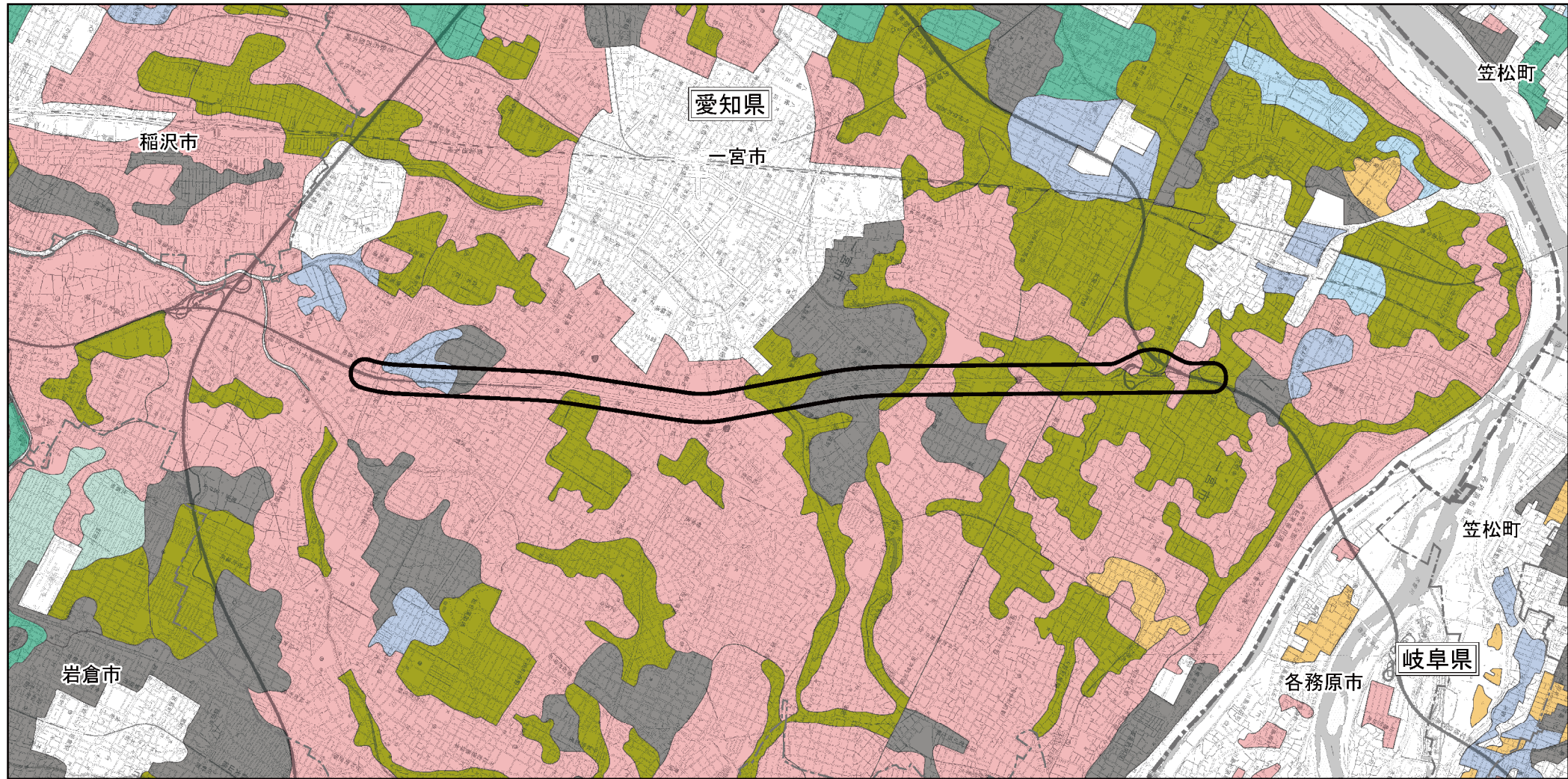
調査区域における土壌中ダイオキシン類濃度の調査地点は図 4-1-16 に、調査結果は表 4-1-28 に示すとおりです。

平成 28 年度に 1 地点で調査が行われており、環境基準を達成しています。

表 4-1-28 土壌中ダイオキシン類濃度調査結果

No	県	市	測定地点	調査結果 (pg-TEQ/g)	調査年度	環境基準 (pg-TEQ/g)
1	愛知県	一宮市	浅井山公園	0.0067	平成 28 年度	1,000

出典：平成28年度ダイオキシン類に係る環境調査結果について（愛知県ホームページ）



凡例

台地及び低地域土壌（農地土壌）

記号	項目
	黄色土壌
	褐色低地土壌
	褐色低地土壌（砂礫質）
	細粒灰色低地土壌

その他

記号	項目
	灰色低地土壌
	細粒グライ土壌
	グライ土壌

記号	項目
	未区分地

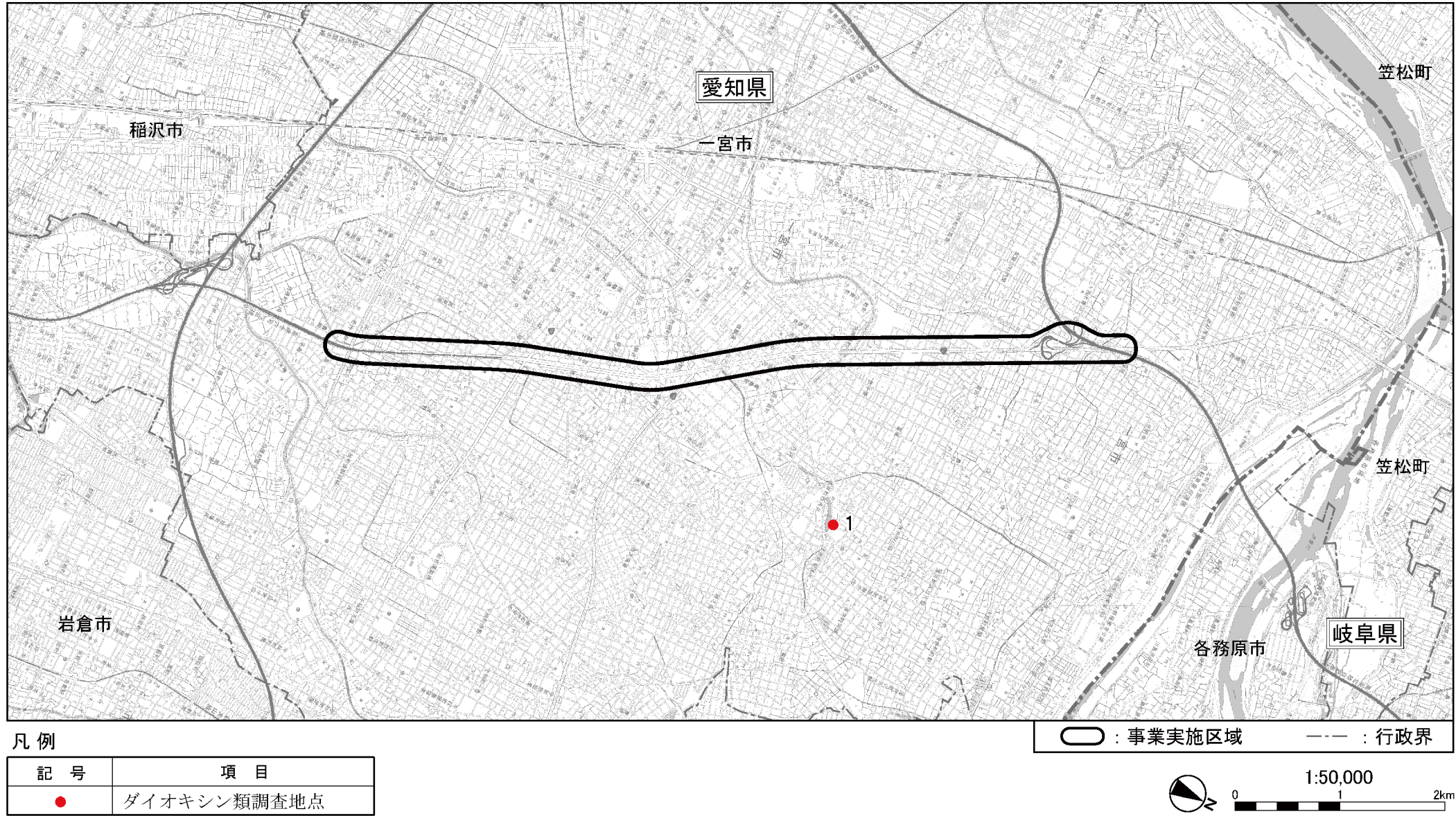
: 事業実施区域    : 行政界



出典：20万分の1土地分類基本調査(GISデータ) 土壌図（国土交通省国土政策局ホームページ）

図 4-1-15 土壌の状況





出典：平成28年度ダイオキシン類に係る環境調査結果について（愛知県ホームページ）

図 4-1-16 土壤汚染調査地点位置図

## 2) 地盤の状況

### (1) 地盤の状況

「令和2年における濃尾平野の地盤沈下の状況（令和3年8月、東海三県地盤沈下調査会）」によると、調査区域が位置する濃尾平野では昭和50年頃までは激しい沈下現象を示していましたが、現在では濃尾平野中西部を除き、地盤沈下は沈静化しています。

なお、一宮市及び稲沢市は、「工業用水法」（昭和31年法律第146号）に基づく指定地域及び「県民の生活環境の保全等に関する条例」（平成15年3月25日愛知県条例第7号）に基づく規制地域に含まれ、地下水の使用に関する許可基準や揚水量報告の義務等が定められています。

調査区域において、「建築物用地下水の採取の規制に関する法律」（昭和37年5月1日法律第100号）に基づく指定地域に含まれる市町は存在しません。

### (2) 地盤沈下の状況

調査区域における地盤沈下の調査地点は図4-1-17に、調査結果は表4-1-29(1)～(2)に示すとおりです。

令和2年度に一宮市では25地点、岩倉市では2地点で調査が行われており、年間変動量は-0.53～0.30cm、累積は-19.54～-1.78cmとなっています。

表 4-1-29(1) 地盤沈下調査結果（令和2年度）

No	県	市	所在地	累積開始年	令和元年 標高 (m)	年間 変動量 (cm)	令和元年 累積 (cm)
1	愛知県	一宮市	中島通5丁目86-1地先	昭和38年	9.6126	-0.36	-5.92
2			木曾川町黒田九ノ通り51	昭和46年	8.8868	-0.32	-9.94
3			牛野通3丁目25-2	昭和36年	7.9453	-0.49	-17.48
4			花池2丁目9番	昭和47年	7.1761	-0.49	-4.26
5			本町1丁目3番	昭和36年	8.6798	-0.51	-3.73
6			千秋町町屋字端畑	昭和46年	11.6622	-0.20	-4.50
7			春明字河戸	昭和46年	13.7464	-0.33	-19.54
8			春明字裏山15	昭和50年	12.9334	-0.14	-3.43
9			今伊勢町新神戸字新開915	昭和38年	8.0211	-0.45	-8.29
10			今伊勢町馬寄字六地藏46-1	昭和46年	8.1573	-0.52	-6.68
11			浅井町東浅井	昭和46年	11.8004	-0.26	-6.35
12			島村字岩畑55-1地先	昭和38年	11.1098	-0.10	-6.77
13			木曾川町黒田四ノ通り65地先	昭和38年	7.7581	-0.52	-8.90
14			木曾川町玉ノ井字寺東27-1	昭和46年	7.4742	-0.36	-11.95
15			木曾川町外割田字西郷東63	昭和51年	7.5403	-0.40	-5.64
16			木曾川町里小牧字北青木25	昭和54年	8.2501	-0.46	-6.94
17			木曾川町里小牧字新田207	昭和51年	9.0636	-0.49	-12.15
18			木曾川町黒田字西針口北切10	昭和38年	9.4082	-0.53	-18.40



表 4-1-29(2) 地盤沈下調査結果 (令和 2 年度)

No	県	市	所在地	累積 開始年	令和元年 標高 (m)	年間 変動量 (cm)	令和元年 累積 (cm)
19	愛知県	一宮市	北方町北方字倉骨 16 地先	昭和 38 年	15.9782	-0.47	-17.57
20			光明寺字石原	昭和 48 年	16.4169	-0.13	-9.01
21			笹野字宮西北	昭和 49 年	11.7068	0.04	-4.97
22			浅井町極楽寺	昭和 48 年	19.1328	0.17	-8.83
23			浅井町極楽寺	昭和 48 年	17.0483	0.19	-8.88
24			浅井町大野	昭和 48 年	19.1050	0.30	-7.98
25			浅井町黒岩字石刀塚 46 地先	昭和 62 年	16.5459	0.23	-3.01
26		岩倉市	北島町川田 2 番地	昭和 55 年	8.0099	-0.27	-2.62
27			西市町竹之宮 24 番地	昭和 52 年	8.9102	-0.16	-1.78

出典：マップあいち「愛知県水準測量調査結果」(愛知県ホームページ)  
令和3年版いちのみやの環境 (令和3年12月、一宮市)

### 3) 地下水位の状況

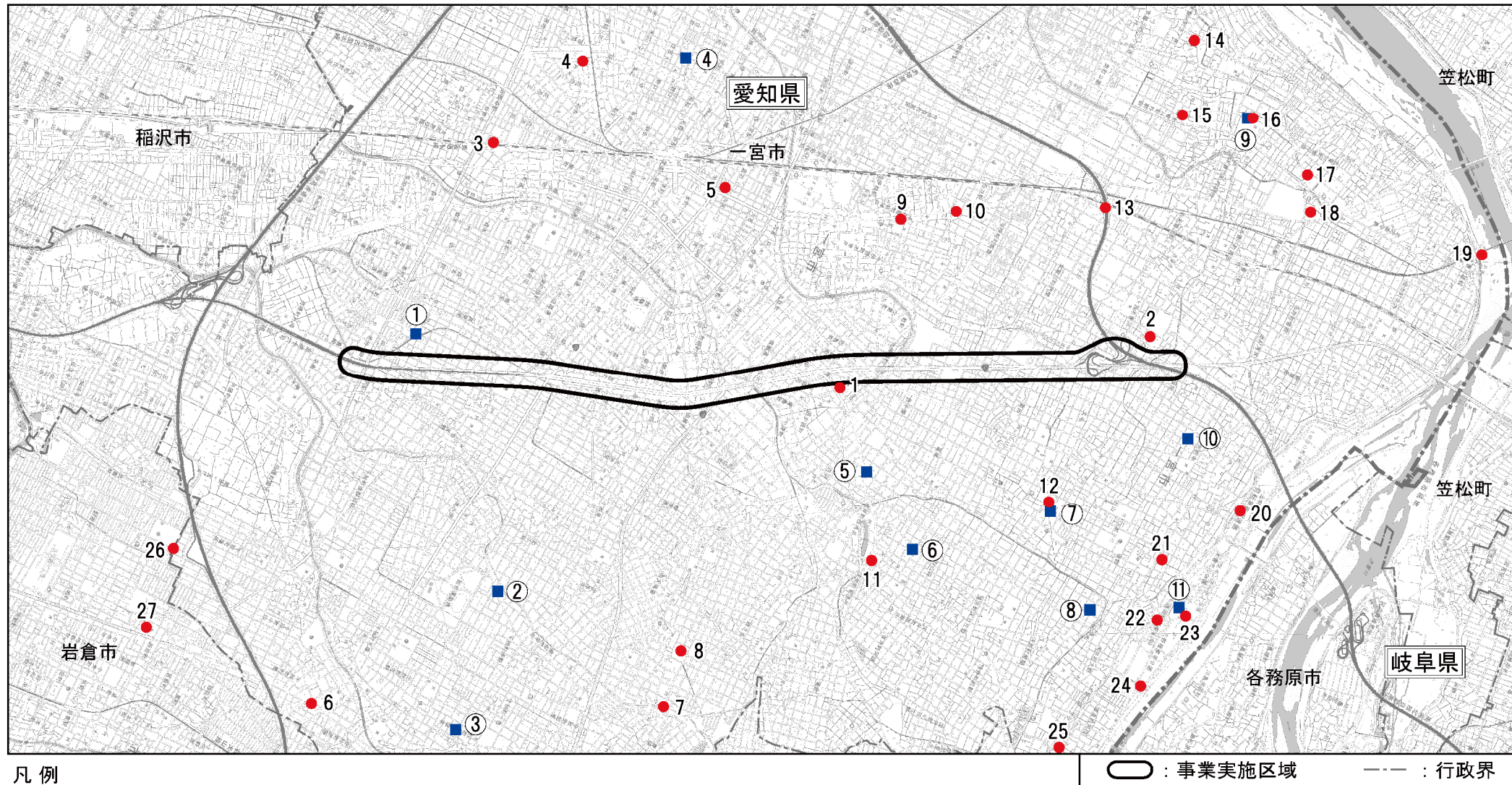
調査区域における地下水位調査地点は図 4-1-17 に、調査結果は表 4-1-30 に示すとおりです。

令和 2 年度に一宮市では 11 地点で調査が行われており、地下水位の平均は 3.25~7.44m となっています。

表 4-1-30 地下水位調査結果 (令和 2 年度)

No	県	市	所在地	観測所名	ストレーナー 位置 (m)	固定点 標高 (m)	地下水位(静水位) (m)	
							平均	変動幅
①	愛知県	一宮市	せんい 3 丁目 1-1	丹陽西部水源地	111~126	9.10	5.84	0.40
②			千秋町浮野 字西望戸 6-1	一宮地盤沈下 観測所	176~196	11.04	5.38	1.04
					76~96	11.05	5.33	1.06
					28~38	11.04	3.25	1.12
③			千秋町穂積塚本 字宮西 223	千秋北部水源地	29~45 51~62	12.60	3.53	2.08
④			住吉 1 丁目 3-6	西部水源地	186~192 213~259	10.62	7.44	1.40
⑤			佐千原字椿 19-1	佐千原浄水場 1 号	41~47 56~67	11.33	5.24	0.65
⑥			浅井町西浅井 字郷裏 20	浅井南部水源地	58~85	11.52	3.47	1.94
⑦			島村字西山 105-4	葉栗南部水源地	55~69 78~83	11.07	3.62	2.02
⑧			浅井町尾関 字長田 3-1	尾関水源所	72~84 110~126	13.19	6.57	1.03
⑨			木曾川町里小牧 字南青木 39	木曾川地盤沈下 観測所	125~147	8.83	4.15	1.17
	78~88	8.83			4.17	1.13		
⑩	光明寺字番陽 18	葉栗北部水源地	40~48 57~68	9.97	4.13	1.83		
⑪	浅井町極楽寺 字池 624	極楽寺水源所 3 号	114~126 147~153	14.50	7.27	2.57		

出典：令和3年版いちのみやの環境 (令和3年12月、一宮市)



凡例

記号	項目
●	地盤沈下調査地点
■	地下水位調査地点

出典：マップあいち「愛知県水準測量調査結果」（愛知県ホームページ）  
 令和2年度濃尾平野地域地盤沈下等量線図（令和3年8月、東海三県地盤沈下調査会）  
 令和3年版あいちのみやの環境（令和3年12月、一宮市）

図 4-1-17 地盤沈下調査地点及び地下水位調査地点位置図



## 1.4 地形及び地質の状況

### 1) 地形及び地質の状況

調査区域における地形の状況は、図 4-1-18 に示すとおりです。事業実施区域は木曾三川により形成された沖積平野である濃尾平野に含まれており、周辺には自然堤防、谷底平野・氾濫平野が広範囲に広がっています。

調査区域における表層地質の状況は、図 4-1-19 に示すとおりです。主に砂、砂・泥及び砂・礫を主とする層で形成されています。

### 2) 重要な地形及び地質の状況

調査区域には、重要な地形及び地質は存在しません。

なお、「日本の地形レッドデータブック第1集－危機にある地形－」（平成12年12月、小泉武栄、青木賢人）に掲載された危機にある地形及び「日本の地形レッドデータブック第2集－保存すべき地形－」（平成12年3月、小泉武栄、青木賢人）に掲載された保存すべき地形は存在しません。

### 3) 活断層の状況

調査区域に位置する活断層は、表 4-1-31 及び図 4-1-19 に示すとおりです。

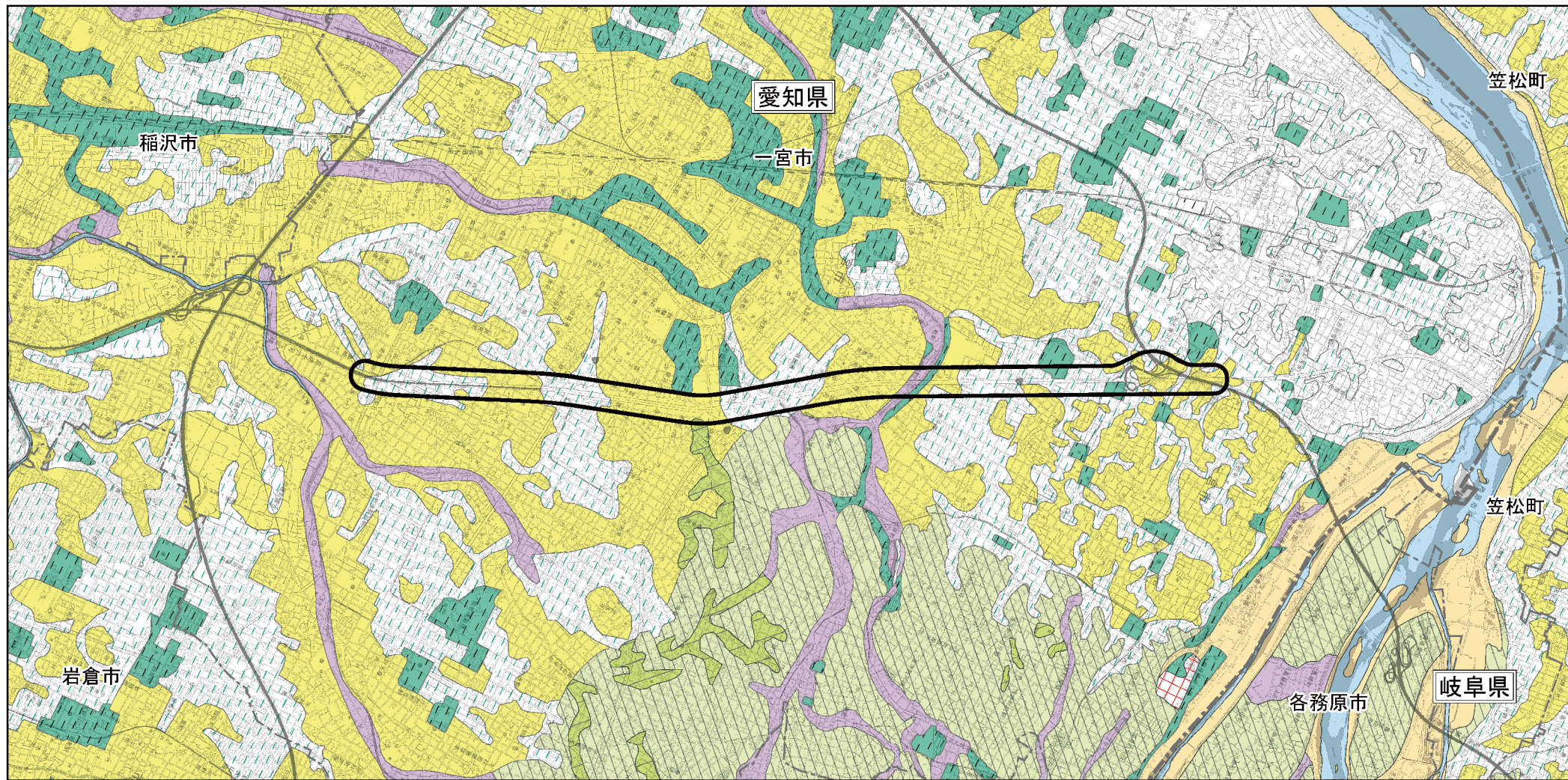
一宮市中央部を南北方向に貫く「岐阜－一宮起震断層」が存在します。ただし、「活断層データベース」（国立研究開発法人産業技術総合研究所ホームページ）によると、当該断層において第四系（第四紀に形成された地層や岩石）を変位させる断層が確認されていないため、活断層ではないと判断されています。

表 4-1-31 断層の状況

No	名称	概要
1	岐阜－一宮起震断層	岐阜県南西部から愛知県北西部にかけて、濃尾平野の中央部に位置する北北西-南南東方向の活断層として推定されていたが、反射法探査では第四系を変位させる断層が確認されず、活断層ではないと判断されている。

出典：活断層データベース（国立研究開発法人産業技術総合研究所ホームページ）





凡例

低地		その他	
記号	項目	記号	項目
	扇状地・勾配の急な谷底		台地及び扇状地上の浅い谷
	自然堤防（微高地）		河川・溜池
	谷底平野・氾濫平野		河原
	旧河道		人工改变地
	盛土地		

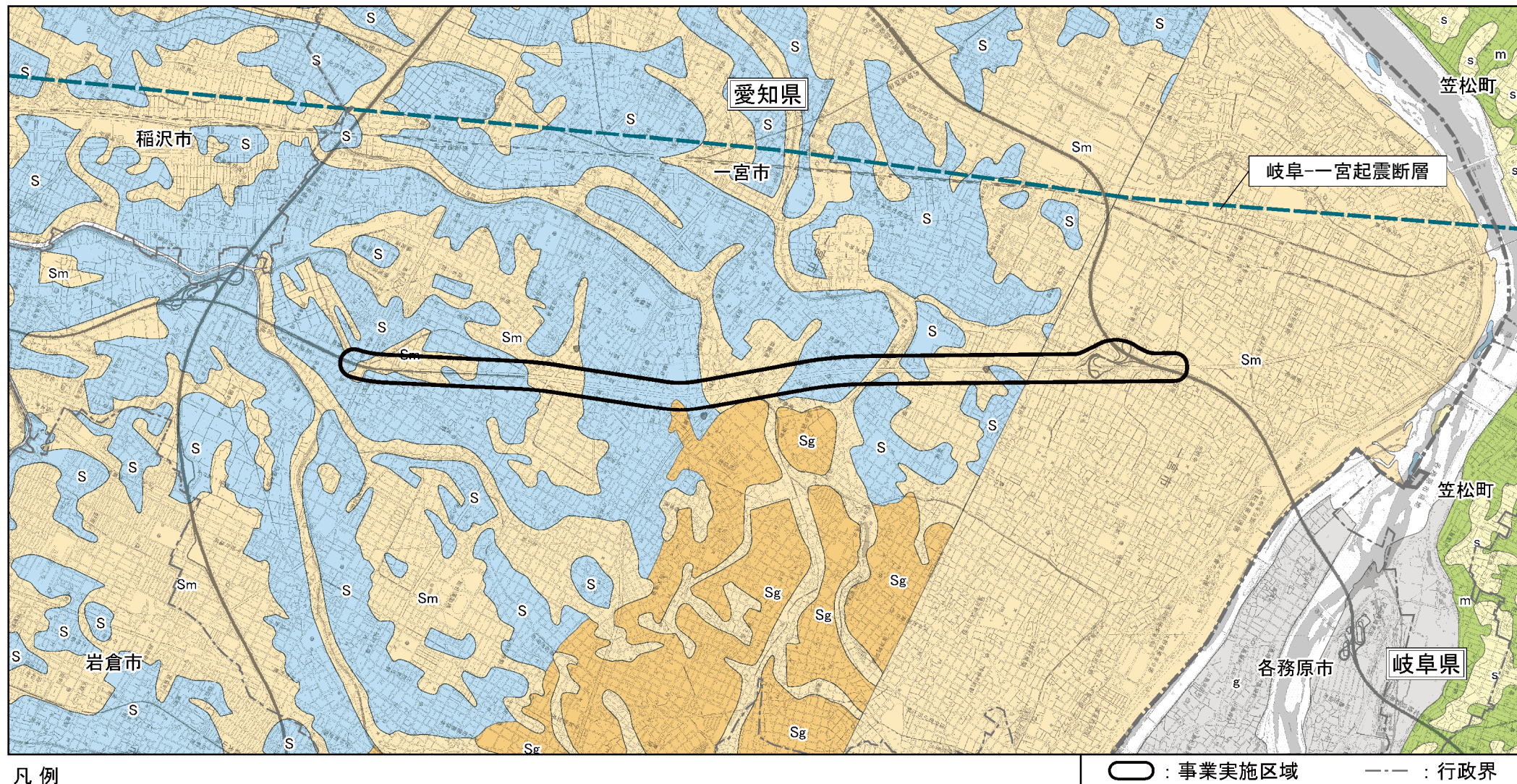
: 事業実施区域    : 行政界



出典：20万分の1土地分類基本調査(GISデータ) 地形分類図(国土交通省国土政策局ホームページ)

図 4-1-18 地形分類図





凡例

未固結堆積物

記号	項目	記号	項目
Sm	砂・泥を主とする層	g	礫がち堆積物
S	砂を主とする層	s	砂がち堆積物
Sg	砂・礫を主とする層	m	泥がち堆積物

出典：20万分の1土地分類基本調査(GISデータ) 表層地質図(国土交通省国土政策局ホームページ)  
活断層データベース(国立研究開発法人産業技術総合研究所ホームページ)

図 4-1-19 表層地質図